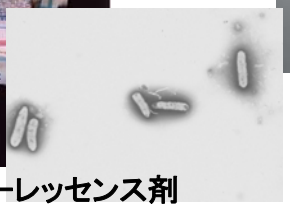
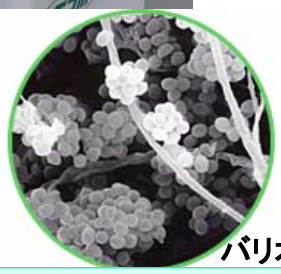
簡単便利、種に生物農薬のコーティング

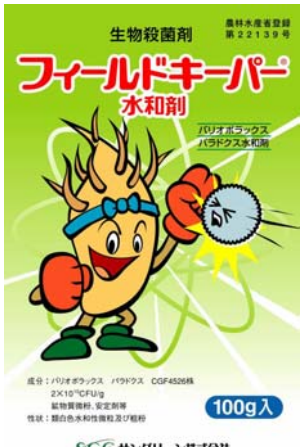
【背景・目的・成果】食の安心・安全へのニーズが高まる中、化学農薬に依存しない防除法の確立が求められています。そこで、ライブコート技術を利用して、化学農薬に代わる安全で安価、 簡単な生物農薬施用法を確立しました。



シュードモナス　フローレッセンス剤



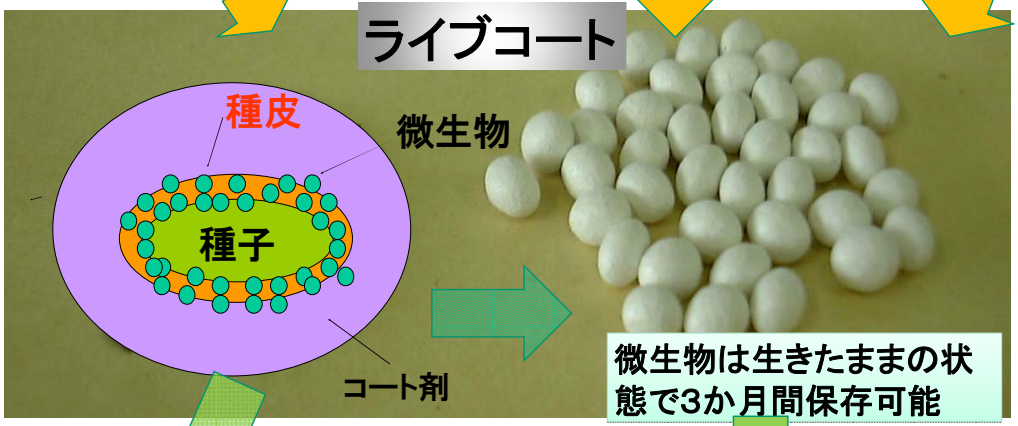
トリコデルマ
アトロビリデ液剤



バリオボラックス　パラドクス水和剤

トマト、水稲、ハクサイの病害に効果を示す生物農薬

生物農薬に含まれる微生物を生きたまま種子にコーティング



微生物は生きたままの状態で3か月間保存可能

ライブコートの特徴：
①種皮の内側に有用な微生物を減圧し潜り込ませる。
②その種子をペレット加工またはフイルムコートする。
③微生物にストレスを与えないように低温除湿乾燥する。

トマト青枯病防除試験
赤い円内がライブコート
無処理の大半は枯死している。

ハクサイ根こぶ病防除試験
右：ライブコート、左：無処理

【技術の活用】生物農薬の使用法の適用拡大を行います。登録拡大後はIPM（総合的病害虫・雑草管理）における防除技術として、農業改良普及センター、生物農薬普及協議会と共に速やかに普及に移します。

兵庫県立農林水産技術総合センター　農業技術センター